

# 行田の日本遺産関連イベント 2017.10

『陸王』【書籍TV】埼玉県行田市にある老舗足袋業者「こはぜ屋」。日々、資金操りに頭を抱える四代目社長の宮沢紘一は、会社存続のためにある新規



イサミスクール工場

事業を思い立つ。これまで培った足袋製造の技術を生か



して、“裸足感覚”を追求したランニングシューズの開発はできないだろうか？世界的スポーツブランドとの熾烈な競争、資金難、素材探し、開発力不足――。従業員20名の地方零細企業が、伝

統と情熱、そして仲間との強い結びつきで一世代の大勝負に打って出る！

[http://www.tbs.co.jp/rikuou\\_tbs/](http://www.tbs.co.jp/rikuou_tbs/)

【行田市観光ガイド】日曜劇場『陸王』10月22日のエキストラ募集について2017年10月16日

14:00 TBSテレビ日曜劇場『陸王』なので、ぜひご参加くだ...「ぶらっと♪ぎ販売中です！2017年10月16日

送がスタートした、TBSテレビ日曜劇場「陸王」撮影（10月14日）の延期につ



撮影が次のとおり行われますようだ」にて「陸王」グッズ08:3510月15日（日）から放「陸王」。その...TBS日曜劇いて2017年10月13日

14:50明日、10月14日（土）予定されておりました、新町通り商店街を利用したTBS...ドラマ『陸王』撮影に関するお願い2017年10月10日14:0010月15日（日）より、TBSテレビ日曜劇場にてドラマ『陸王』が放送されます。いよいよ、ドラマ『陸王』スタートします！2017年10月10日 11:3010月15日（日）よりTBS日曜劇場にて本市が舞台に

<http://www.gyoda-kankoukyoukai.jp/>

『田んぼアート』は水田をキャンバスとして、色彩の異なる複数の稲を植え付け、文字や図柄等を表現する取組です。2015年「最大の田んぼアート」としてギネス世界記録TM（公式認定記録：27,195平方メートル）に認定されました。田んぼアート南会場の絵柄が浮かび上がりました。「田んぼアート」in行田 今年、10周年を記念して特別に2会場で実施しております！行田市が舞台となる池井戸潤さんの小説「陸王」がTBSの10月期「日曜劇場」枠にてドラマ化決定！！単行本「陸王」の書影を模したデザインと、主演・役所広司さんの似顔絵をおよそ10,000㎡(1.0ha)の田んぼに描きました。尚、10月14日（土）に予定しておりました「田んぼアート稲刈り体験」は「中止」。 <https://www.city.gyoda.lg.jp/15/05/10/tanbo27/images>

『第13回ぎょうだ蔵めぐりまちあるき』【まちあるきイベント】5月20日、21日の2日間に行われた「第13回ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」で日本遺産のPRを行いました。「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」は、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークが毎年開催しているイベントで、スタンプラリーをしながら日参加者に楽しんでもあり、例年よりも



本遺産の構成文化財である足袋蔵等を巡り、いただくイベントです。今年は日本遺産認定多くの方に参加していただいたようです。

『蔵めぐりまちあるき2015☆今津蔵・新町ほっとステーションから。2015年06月17日 あらまちアーケード沿いの今津蔵(今津印刷所) ○外観見学 ○足袋蔵まちづくりミュージアム ○奥貫蔵(あんど)・武蔵野銀行 ○牧禎舎 ○足袋とくらしの博物館 ○ボンネットバス ○大澤蔵・足袋蔵ギャラリー門 ○今津蔵・新町ほっとステーション ○忠次郎蔵・サカタメガネ○十万石・翠玉堂・保泉蔵・とみた宝飾 ○小川源右衛門蔵・旧忍町信用組合・長井写真館 ○イサミ工場・ゴール



<https://ameblo.jp/daisuki-gyoda/entry->

『まちゼミ』7月14日第11回「まちゼミ」の開催について。『GYOUDA TABIJAPAN』第一回 忍城下の名所を巡ろう。2017.9.2-10.1第二回 忍城おもてなし甲冑隊と行きます。2017.10.7 『2017スタンプラリーin行田』 発見! 体験! 埼玉スタンプラリー2017 月14日(金曜日) から30年1月15日(月曜日) 県内の工場や観光施設を巡って、埼玉の魅力を発見&体験! 今年度はスタンプスポットが130カ所! 知って・学んで・楽しんで、子供も大人も、みんなでキラッキラ

『忍町アートギラ』と歴史の忍町をに置いてあるスタンプを贈呈しま



の笑顔になろう! 『スタンプラリー2017』【まちのイベント】アーのんびり散策。それぞれの展示場所ンプを5個以上集めた方に、もれな



を集めてください。日時 2017.10.10-11.15 場所 行田中心街、牧亭舎(手作り雑貨、アクセサリーの販売、忍町手作り市)主催 忍町アートギャラリー 主催忍町アート化作戦実行委員会

<https://www.facebook.com/oshimachiartgallery/>

『蔵のまち行田 歴史めぐりツアー』【まちのイベント】今年の4月28日、行田市の「和装分化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」のストーリーが日本遺産に認定されました。これを記念しまして、大堰観光主催の日帰りツアーを紹介いたします。実施日は7月、8月の中で計12回。お申込みは出発日の2日前までOKです! また、地元の観光ボランティアガイドが終日同行で、昼食・入館料込み(古代蓮会館の入館料を除く)で一人様3,800円です。行田の観光名所を巡り、歴史に触れてみてはいかがでしょうか



『行田足袋』【コンテストイベント】昨年までベスト足袋ニストコンテストとして行われたイベントは、今年から足袋コレと同一のコンテストとして生まれ変わりました。「これこそ足袋」という

こだわりを持った方や「こんなアレンジもあるのでは」という"新たな足袋"を提案したい方など、足袋"愛"あふれる方々のお申込みをお待ちしております。<http://www.gyoda-tabi.com/>  
<https://www.facebook.com/besttabinist/>



『忍城おもてなし甲冑隊』行田市はこの地を訪れる観光客の皆様がよりいっそう歴史に親しんでいただけるよう、戦国時代に秀吉軍と対峙した成田家の「おもてなし甲冑隊」を結成。城址（おしじょうし）・客との記念撮影、勇壮なっています。また、埼玉への出演なども予定し



勇猛果敢な武将達をモデルに「忍城おぞしました。主な活動内容として、忍郷土博物館を中心に市内各所で観光演舞パフォーマンスの披露などを行玉県内外で行われる観光 PR イベント

<http://www.oshijo-omotenashi.com/>



『足袋蔵まちづくりミュージアム』【観光案内】この足袋蔵を建設した栗原代八商店は文化 5 年(1808)創業の老舗足袋商店で、江戸時代は「松沢屋」と呼ばれていました。「小町足袋」「旗印足袋」の商標で手広く商売を営み、すぐ近くに工場があり、敷地内にも数棟

の足袋蔵が立ち並んでいました。

《現:足袋蔵まちづくりミュージアム》

『足袋蔵ギャラリー"門』と『クチキ建築設計事務所』【飲食】は「Café『閑居』は奥貫家の住宅として、昭和 5 年に建設された高級木造住宅で、奥貫賢一氏(初代行田市長で名誉市民)が暮らしていました。閑静な庭園と一体とな醸し出しています。その他明治 43 年建設。これらは現在は整備・再生されたも展、コンサート等の催しが開かれアートを



って落ち着いた佇まいをの足袋蔵も残されています。特に『門』は絵画発信の重要な場となつて

『旧小川忠次郎商店店舗及び主屋』忠次郎蔵は『NPO 法人ぎようだ足袋蔵ネットワーク』の事務所、及びそば店『忠次郎蔵』として活動しています。

『藍染体験工房』【イベント工房】「牧禎舎」は「NPO 法人ぎようだ足袋蔵ネットワーク」が藍染体験工房として再活用を提案。遺族の方々が「牧禎舎」と命名しました。気楽に本藍染が体験できる施設として好評で新たな観光・生涯学習スポットとして注目されています。



『十万石ふくさや行田本店店舗』【店舗】呉服商山田清兵衛商店の店舗として、明治 16 年(1883)に棟上げされた店蔵です。山田清兵衛商店は江戸時代後期の文政 6 年(1823)にはすでにこの地で呉服商を営んでおり、この店蔵を建設したのは 11 代:山田清兵衛(伊

三郎)でした。建物は完全な土蔵づくり2階建てで、行田では珍しい東京(江戸)の面影が見られる重厚な店蔵です。今の原型は昭和53年に改装されたものです。

『**牧野本店**』【博物館】明治32年(1989)～大正期の足袋蔵工場・大正11年(木造洋風工場)・大正13年頃(店蔵、土蔵他)全盛期の足袋商店の様相を現す建物群。行田随一の豪勢な店蔵、木造洋風の工場、土蔵3棟が残る牧野本店。足袋全盛期の典型的な行田の“中規模足袋商店”の様子を伝える貴重な建物群です。明治7年に武士から足袋商人に転身した牧野鉄弥太氏は明治32年以降3棟の「足袋蔵」を建設するなど商売を拡大して行きました。《現:「足袋とくらしの博物館」》

